小川博さんを送る

岩槻邦男（植物園）

植物園事務主任の小川博さんが定年退官される。図書館から転じて来られて2年，はじめから分かっていたことではあるものの，終ってみればアッという間のことだったような気もする。

植物園の主任をやって下さる方は，本部に居られたことがあって何かの形で植物園のことに関与されたことがあるようである。しかし，実際主任として着任されると，事前に話を聞いておられても，当惑されることばかりのようである。恵まれた場所にあり，世の中にも知られた一般公開の施設であるというのに，研究教育や系統保存などの事業には積極的で成果は上がっているとはいうものの，社会教育に関わる部分は，小石川植物園後援会のような事務主任の権限外の団体の援助に頼るだけという状況である。一方また，国内外の来客も多く，その度に主任が対応を求められることになる。

小川さんも，学内のいろいろな部局に在任されたあとで植物園に着任されたのであるが，東京大学で最後の職場としては，予想外に多様な仕事の内容に吃驚されたことだろう。しかし，私共の前では愚痴めいたことは何も仰言らずに，むしろ楽し気に一つ一つの難問を解決していって下さった。危険な個所ができたら，その度ごとに営繕の費用も獲得して来て下さり，おかげで，入園者に事故が生じることはなかった。

小川さんと一緒に仕事をさせていただいていると，何となく平静心を与えられてしまう。私など，欲張りなせいか，焦らいらすることが始終であるが，小川さんと話しているうちに，何となく納得

して，やれる範囲でできるだけのことをしてみようという気になってしまう。それでいて，小川さんはいろんな問題を片付けて下さる，という次第である。アッという間と形容した2年間に，懸案となっていた幾つかの難問を，小川さんは片付けて下さった。それでいて，何でもなかったような表情で，定年の日を迎えようとしておられる。

勤務を離れての小川さんはまた人間味豊かな方である。酒を愛し，飲むほどに愉快に話が弾んでくる。また，たまたま帰り途で一緒になった時など，御家族のことなど話される度に，温かい御家庭のことがわかり，良い親父さんの雰囲気が伝わってくる。植物園の2年の間には，人のやりくりがつかなくて門の業務のために日曜出勤されたことも度々だった。なかには，無理な日もあっただろうと思うが，いつでも‘いいですよ，私が出て来ますから’，と引き受けて下さった。

定年といっても，今の日本人としてはまだまだ若い年令であるし，実際小川さんは健康にも恵まれておられる。今後もお元気で御活躍されることを祈念し，植物園のために大きな貢献をして下さったことにお礼を申し上げたい。